

10万立方メートルのLNG貯蔵タンク2基を建設中だが、同施設には14万t級のLNGタンカーが入港するため、一回の積込でタンク1基半分の運搬が可能であり、そのために貯蔵タンクの容量不足が懸念されている。この問題を補うため、隣接地にさらに1基、同じ規模のタンクを建設することを検討している。



(撮影日 2005年6月15日)



コンクリートが巻き立てられた貯蔵タンク  
(撮影日 2005年10月20日)

プロジェクトは自然環境にも配慮しており、LNGプラント施設と原油輸出ターミナルの間に小河川があるが、秋にはカラフト鱒が遡上するためここをプロテクトゾーンとし幅50mの緑の森を設けていた。また、環境調査として川に遡上する鱒の数や水質調査など数十項目にわたり、調査するという厳しい内容を聞いて驚いた。環境を考えて施工を行うことは、今や、世界中の共通認識である。



雨水処理用の沈殿地

現地の環境団体が目を光らせこの工事が環境にどのような影響を及ぼすか監視体制が強化され、現場周辺への環境調査も詳細にわたり実施されている。

環境調査は年次計画に沿って実施され調査内容は非常に厳しいと担当者は説明していた。例えば、「現場近くの川に遡上するサケを一匹残らず数えている」と話を聞き、唖然とした。



現場内を流れる河川。(産卵時期にはカラフト鱒で溢れかえるそうだ)

広大な現場敷地内の視察は、C T S D側が用意してくれた大型バスに全員が乗り込み行われた。

我々がチャーターしたサンタリゾートのバスに比べ、かなり快適な乗り心地であったが、残念なことに窓が青色をしていたため、写真の見栄えが悪くなってしまった。



出荷棧橋付近では、盛んに浚渫作業が行われていた。  
これだけの数の作業船が一堂に会する光景は、国内では先ず持って見られない。  
右端に写っている船は日本のコンクリートプラント船である。

ＣＴＳＤの説明では、ここで浚渫した土砂を別の海域へ運搬し、海上投棄をしているそう  
だ。

我々から、日本では漁業被害の報道が一部されているが？との質問に対し、周辺海域の  
生態や漁業への影響は全く無いと回答してくれた。

(もともと、海から揚げたものを海へ返すだけという理屈らしい)

しかし、WEB上に2005年11月3日付で下記の記事が掲載された・・・。

「サハリン2の液化天然ガス工場の建設現場(ＣＴＳＤ管理)である、サハリンのプリゴロドノエで  
建設中の液化工場用の荷下し岸壁でおこなわれている全ての作業が不法であると裁判所が判断、こ  
れまでもプリゴロドノエには数々の問題が起こっており、サハリンエナジーをはじめ工事を請け負っ  
ているＣＴＳＤも頭が痛いところだ。」

( <http://homepage1.nifty.com/akazaki/page005.html> )

ロシアでこんな言葉があるかどうかは定かでないが、なんとも「一筋縄」ではいかない  
ようである。

今回の視察では、プラント現場におけるワッコルの関わり方や、現場で活躍されている  
日本人技術者の話を聞くことが出来ず、少し残念ではあったが、業務多忙中にも関わらず、  
これだけの視察団を受入してくれたＣＴＳＤには心から感謝を申し上げたい。

現場の視察を終え、コルサコフにある「LOTOS」というレストランに向かう。

毎回、何処のレストランに行っても、同じような食事が出てきていたので、参加者全員があまり期待をしていない様子であった。

やはり、今回も同じメニューであったが、参加者の一人が日本から持参した醤油を出して使用したところ、料理の味付けとマッチングし、以外にも完食してしまった。



レストラン「LOTOS」

食事を終え、コルサコフ市内が一望できる高台へ向かう。ここには日本統治時代に作られた灯台らしきものがあり、現在も活躍中という話を聞き、日本の技術に改めて感心させられた。





高台から望むコルサコフ港、フェリーや運搬船が接岸する岸壁には防波堤が無く自然の影響をダイレクトに受ける。



14時頃コルサコフを出発しユジノへ向かう。

途中、ユジノとコルサコフの中間地点で、パイプラインが道路を横断しており、そこで写真を撮るために車を止めてもらった。



パイプ敷設作業の進捗状況は、6月に行ったときからあまり進展がないように見受けられた。

15時頃、皆で自由市場へ行く。人数が多いため通訳をこのときだけ2名追加した。そのうちの一人は6月にお世話になった、クールな36才、サハリンで日本語教師をしている「サーシャ」であった。短い時間で会話があまり出来なかったが、彼も再会を喜んでいた。

宗建会寺澤副会長が前回訪問時に悩んだあげく、購入をあきらめた子供用の毛皮帽子を、今回は絶対にお買おうと日本を出発する時から決めていたらしく、バザール到着前、通訳の幸子さんにお店との値引き交渉を依頼した。

帽子を販売している露店に到着。案の定値札はどの帽子にもついていない。

幸子さんがロシア語で「なんぼさ？」と聞くと、店員がすかさず「1つ2,500ルーブル」と言った。

前回自分が交渉したときよりも、500ルーブル安いらしく「2つ買うからもう少し安くないか」と幸子さんが再度交渉すると、店員はチョット間をおいて「1つ2,000ルーブルでいいよ」と言ったか言わないかは定かでないが、4,000ルーブルで帽子を2個買うことが出来た。

少し高価だと思ったが、とりあえず「オーチン・ハラショー」である。



自由市場での買い物を終え、ホテルに戻る途中デパートに立ち寄った。  
生鮮食料品や衣料品、文具などが豊富に取り揃えてあった。

以外にも、サンタリゾートホテルでしか購入できないと通訳の幸子さんが言っていたキャビアが販売されていた。ホテルで買う値段よりより若干高かったようだが、何名か購入していた。



今回最後の夕食は、ユジノサハリンスクの駅前にあるレストラン「INVER」。



写真左側の低い建物が「駅」、棟続きで右側に6階立ての「ユーラシアホテル」